

令和元年 9 月 9 日

## 仙台藩祖伊達政宗公と佐沼亙理家初代宗根公の 親子関係を伺わせる書状の発見について

令和元年 9 月 21 日（土）から、登米市歴史博物館で開催する企画展『亙理宗根没後 350 年記念「伊達政宗のこどもたち」』に展示する館蔵の伊達政宗文書（佐沼亙理家寄贈文書）について、資料調査により、仙台藩祖伊達政宗公と佐沼亙理家初代宗根公の親子関係を強く伺わせる書状であることが確認されましたので、情報提供します。

### 記

#### 1 亙理宗根公とは

江戸時代前期の仙台藩重臣。慶長 5 年～寛文 9 年（1600－1669）。系図上は、伊達政宗公の重臣・茂庭綱元と豊臣秀吉の寵姫・種（香の前）の子ども。

佐沼亙理家初代。高清水（宮城県栗原市）を中心に約 5000 石を領し、江戸番頭や奉行を務めた。古くから政宗の子どもとする見解はあったが、それを伺わせる資料は確認されていなかった。

#### 2 資料名

伊達政宗自筆書状 亙理右近太夫宗根宛（年未詳）9 月 18 日

#### 3 内容

政宗公の自筆による 9 月 18 日付けの書状。翌 19 日明朝に宗根公と面会の約束があったものの、難しい（おそらく深酒による体調不良が原因）ため、19 日の晩であれば面会が可能である旨、宗根公へ送ったもの。

文中の宛名「了庵二番ノ子」と追而書の和歌（和漢朗詠集の 1 首）の解釈により、政宗公と宗根公との親子関係を強く伺わせるものである。

#### 4 資料解読者

佐藤憲一氏（伊達政宗研究家 元仙台市博物館長）

#### 5 その他

- ・資料画像および解読文を添付します。Jpeg データが必要な場合などは、登米市歴史博物館までお問い合わせください。
- ・掲載および報道いただける場合は、「画像提供：登米市歴史博物館」とクレジットを入れていただきますようお願いします。

〔問い合わせ〕  
登米市歴史博物館  
担当：高橋  
TEL：0220-21-5411（直通）

一  
子

多  
子

何  
物  
如  
来  
之  
身  
也  
其  
心  
亦  
如  
来  
之  
心  
也

又  
云  
如  
来  
之  
身  
亦  
如  
来  
之  
心  
也

此  
心  
亦  
如  
来  
之  
心  
也

此  
心  
亦  
如  
来  
之  
心  
也

亦  
云  
一  
心  
即  
佛  
佛  
即  
心

左  
云  
一  
心  
即  
佛  
佛  
即  
心

氣  
也  
也

有  
心  
有  
身

~~有  
心  
有  
身~~

子  
子  
子  
子

ト  
何れも  
一

十八日

一



登米市歴史博物館所蔵「佐沼亙理文書」

### 伊達政宗自筆書状

亙理右近太夫宗根宛 (年未詳) 九月十八日

〔原文〕

(端裏ウワ書)

「 十八日

より

(封印) 亙理右近太夫殿 政宗 一

しらしらとしらけたる

かな月影に雪

明朝約束申候へとも、機

かき分て梅の

相しかくともなく候て、

はな折る

不定々々。但、明

十九及晩候てへ可

参也。不一。

九月十八日 (花押)

了庵二番ノ子

〔読み下し〕

明朝約束申し候へども、機相しかじかともなく候て、定まらずく。

但し、明十九晩に及び候ては、参るべきなり。不一。

九月十八日 (花押)

了庵二番の子

しらしらとしらけたるかな月影に雪かき分けて梅のはな折る

※しらくしらけたるとし月光に雪かきわけて梅の花をる(「和漢朗詠集」)

○「しらでら」とは、白く見える、白々としている、明らかである、などの意味であるが、「こ」では「興ざめなことよ」の意。「知つていながら知らないふりをして」の意。

○「しらけたるかな」とは、白くなったことよ、の意味であるが、「こ」では「興ざめなことよ」の意。

( 令和元年八月三十一日 佐藤憲一解説・解説 )